# 第5章　動詞

動詞は，コピュラ文以外の文の構造において，唯一の必須要素である。この章では，動詞を形態論的に分析し，各構成要素の機能を明らかにするとともに，動詞の派生形，活用，声調について考察する。

例文の下に記した分析文のハイフン（－）は，形態素の境界を表わす。ただし，すべての形態素を区切っているわけではない。分析文は，ハイフンで区切ってある単位での基底形を示す。従って，基本的には母音調和やその他の音韻交替が起きる前の各形態素の基底形を示すが，形態素をハイフンで区切ってない場合（例えば「動詞語根」と「拡張辞」（5.3.参照）など）には，その単位に分析を加えていない。なお，この章では，例文の番号は各節で振り直すことにする。

## 5.1. 動詞の構成

マテンゴ語の動詞は以下のように構成される。

dʒwágubutukila　「彼は君を追いかけるだろう（未来）」

| 主語辞 | 時制辞 | 目的語辞 | 語根 | 拡大辞 | 派生辞 | 前語尾辞 | 語尾 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| dʒu | á | gu | but | uk | il | ϕ | a |
| <3sg> | <未来> | <2sg> | 「走る」 | | <適用形> 「～に向かって」 | | <基本> |

これらの構成要素は必ずこの順序で結合するが，常にすべての構成要素が現われるわけではない。また拡大辞と前語尾辞，時制辞と前語尾辞のように，共起できない要素もある。これらの構成要素は，結合の際に，母音調和，子音交替，音節の脱落，といったいくつもの音韻規則が適用されて表層化する。動詞を構成する必須要素は，主語辞，語根，語尾，である。

[1] ただし，母音調和の現われ方について論じている 5.3.2，5.3.3.，5.3.4.については例外で，ハイフンで区切ってあっても，各形態素は母音調和を起こした表層形を示す。

構成要素は，役割によって以下の３つに分けられる。

①文法呼応要素　・・・　主語辞，目的語辞
②動詞の意味を決定する要素　・・・　語根，拡大辞，派生辞
③活用要素　・・・　時制辞，前語尾辞，語尾

この機能別に，各構成要素の現われ方と，これらが具体的に用いられている派生形や活用形の用法について，5.2.～5.6.で示す。